

序

基本をおさえることは何よりもまして重要である。そのことを、医師30年目を迎えてあらためて痛感している。これから医師の道を進むべく、その入り口にいる若者達には、些か陳腐で、夢のない言葉であるかもしれない。

しかし、やがて気づくことになる。どんな高度な医療機器を用いても、どんな高価な薬剤を用いても、どんな難しい論文を読んでも、その結果が応用でき、かつよい転帰を生む介入というものは、極めて限られている。さまざまな経験を積み積むほど、そのことがより明瞭になる。

夢は追い続けなければならない。新しい、よりよいものは、探し続けなければならない。しかしその根底に、しっかりとした基本がないといけない。

本書は、レジデントノート2017年11月号の特集を元に、項目を増やし、増刊号として企画した。内容としては、救急/ICU領域で、研修医が自ら使用する頻用薬剤を対象を絞り、その基本的な使い方を記した。これだけでは足りないが、少なくともこれだけはしっかりと研修医時代に押さえておいてほしい、そんな意図で、項目や、薬剤が選択されている。

内容は、完璧ではない。詳細や応用は、成書や、あるいは最新の文献により補完されなければならない。しかし、ここには、押さえるべき基本がある。

内容に、多少の偏りや不足があるとの批判もあろう。個々の施設における上級医の指導と異なるところがあるかもしれない。しかしそれもまた現実であり、臨床というものである。意見が多様なところほど、解決すべき問題があることにむしろ興味と喜びを感じ、それを手がかりにして学習や研究を進めていただければ、企画者としてこんなに有り難いことはない。

2018年9月

秋の気配を感じる、元安川のほとりにて
志馬伸朗